

# 令和元年度 活動報告 「スタートアップ部門」

団体名

●●● (スリードット)

団体概要

地域活動の取り組みが継続的に行われるように、すでに地域活動支援に取り組んでできる中間支援者を中心に、体験や地域の事例から意見交換や対話の場を提供する。テーマに沿った勉強会を実施する。勉強会に招いた事例報告者を集め、勉強会で得られた成果・知見を発表する。

## 活動名：持続可能なまちづくりスタディ

### 1 活動の目標と達成度合い

**目標：**地域活動に対する中間支援のあり方について、広く意見交換ができる場（勉強会）を開催しその成果を発表すること。

**達成度：**すでにまちづくり活動を実践している人を話題提供者として招いた勉強会を3回開催し、そこで得られた知見を活かしたワークショップを開催した。目標に対する達成度は満たした。



### 2 活動の成果（活動を通して得られた成果）

**【勉強会のテーマ】** ※このテーマに沿って、勉強会を開催した

第1回：支援を継続するためのヒント：ベテランの中間支援者から学ぶ

第2回：ひと・まちのエンパワメント：ローカルニュースの発信者から学ぶ

第3回：地域活動支援の現場から：現場の実践者 から学ぶ

#### 第1回「まちづくりの先輩の話を聞こう」（7/30開催）

**話題提供者：（株）対話計画 藤森幹人さん**

○まちづくりの近年の動向：家庭の問題から社会の問題へ

○まちづくりって何？：つくるのではなく、今あるものを  
いかす、育てる→「まち育て」

○建築士としてまちづくりに関わる姿勢

○多様性ある社会における「倫理・常識とは？」



#### 第2回「まちを伝える面白さ」（9/30開催）

**話題提供者：港まちづくり協議会 岡西康太さん**

○協議会で発行している「ポットラック新聞」「かわら版」  
の制作の裏側。（編集会議、取材の仕方）

○取材・編集を担うボランティア集めのポイント。

○地域「超」特化型の魅力...小地域で、マニアックに。

○地域外の人間だから見えること：外からおもしろがれる



第3回「事業者・住民・地域の歴史の橋渡し」(12/6開催)

話題提供者：あつた宮宿会

/神宮駅前まちづくり協議会 加藤剛嗣さん

- 「リノベーション」とは？：re+innovation →新しい意味(物語)を見立てること。
- まちの活性化って？何が活性化させるのか？：「繁盛店」が紡ぎ出すまちの様相(神宮駅前の現状と未来)
- まちの歴史と自分自身の歴史を重ねることでみえてくるもの
- 無償ボランティアと自己満足：自分の関心を活かす



「ストーリー・オブ・アス」

～まちのものがたりワークショップ～(2/2開催)

◎3回の勉強会からの学び→「物語の再構築」

- ・3人の話題提供者の方々それぞれの活動の背景にはそれぞれの動機、想い、物語がある。
- ・個人的な「体験」や「気持ち」にとどまらず、まち、社会の物語として“意味づけ”して伝えることに共感・理解が生まれている。

勉強会からの学びを活かし、私とまちの物語を私たちの物語へ拡張していく試みとしてWSを開催。

- ①各参加者が抱えている「名古屋」への想いを共有
- ②各参加者の共通する基盤(コモングラウンド)から、まちの未来を描く。...「まちの物語の再構築」

- ・1日をかけて実施しましたが、時間が足りない程でした。
- ・参加者一人ひとりのまちの物語はとても豊かなもので、その物語をみんなのもの、「ストーリー・オブ・アス」として共有することが、少し難しかったです。
- ・個人の語りが未来のまちを創造していくことができると確信をもつことができました。



3 活動の目標達成のために努力したこと

- ・日常業務(仕事)を抱えながら、勉強会の開催に向けて、企画検討、話題提供者の方への連絡調整等を行うことは思いのほか大変であった。
- ・勉強会を開催後、必ずふりかえりを行ない、次の勉強会の実施に活かすようにした。



4 活動で得た学び(みんなに伝えたいこと)



- ・私たちが生活している、「まち」との関わり、抱えている思い、ありたい未来の姿などを共に語り合う場をつくることはとても重要なことであると感じました。
- ・今後は、参加者の方からの意見を参考に、直接まちのものがたりの現場に触れるべく、名古屋の主要な街道沿いを歩く会を開催したいと考えています。まちの歴史を学びながら、今を生きる私たちはどんな新しい物語を紡ぎ出すのかを楽しみたいと思います。